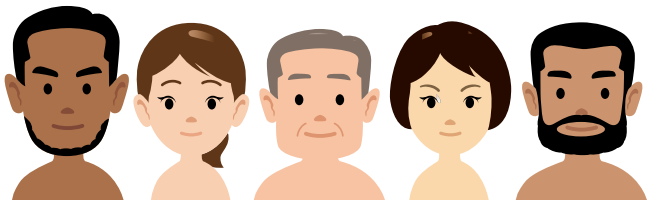


PrEP

プレップ

HIVの新しい予防方法



新しいHIVの予防方法が利用可能です。

- PrEPとは「曝露前予防内服 (Pre-Exposure Prophylaxis)」のことです。
- PrEPは全ての人々が適用対象ではなく、また全ての人々が服用を望むものではありません。
- しかし、HIV陽性者を含む全ての人々が、PrEPについて知っていることは重要です。
- PrEPは様々な国や地域で利用可能になり、服用者が増えつつあります。

PrEPは服用中の人々がHIVに感染することを予防する薬です。

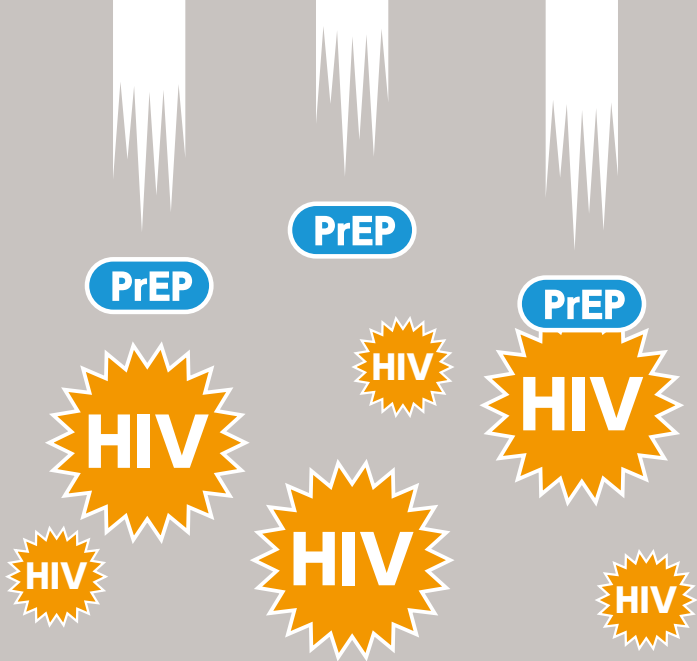
- 性交渉の前に服用を開始し、性交渉の後も服用を続けます。
- PEP(Post- Exposure Prophylaxis「曝露後予防内服」)とは異なるものです。PEPはHIVに曝露したと考えられる性交渉「後」に服用する予防方法です。
- * PEPで使用する薬剤や内服方法はPrEP薬とは異なります。
- PrEPで使用する薬は、HIV陽性者が服用するHIV治療薬の一部と同じものです。



PrEP

PrEP

PrEP



PrEPは高止まりしているHIV感染率を減少させることが可能な、新しい予防方法の選択肢です。

- コンドームは数万ものHIV感染を防いできた、とても効果的な予防手段です。
- しかし、HIV感染率は変わらず高いままです。
- PrEPを最も必要としている人たちに提供した場合、個人のレベルでも人口全体でも、HIVの感染を大きく減少させる可能性があります。

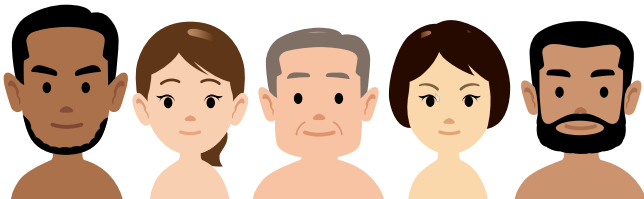
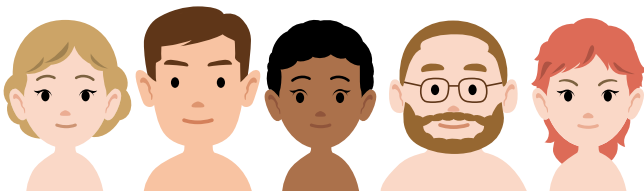


PrEPは、指示された通りに服用した場合（副作用はほとんどありませんが）、HIVに対して極めて高い予防効果を発揮します。

- PrEPによるHIVの予防効果は極めて高いことが研究により証明されています。これらの研究では、実際のリアルな状況でのPrEPの有効性が確かめられました。
- 一部の研究でPrEPの効果が得られなかったものもありましたが、そのような研究では参加者が処方通りに服用しなかった、または、服用できなかった場合がほとんどでした。
- PrEPの服用で副作用を経験する人はほとんどいません。主に頭痛や吐き気といった症状で、たいていの場合、時間の経過とともになくなります。




































PrEPは、HIV陰性で、 感染リスクの高い人に適しています。

- PrEPはHIV陰性の人だけしか服用はできません。
- 全ての人がPrEPの服用を望むわけではありません。
- PrEPを行うことで最も大きな恩恵を受けられるのは、HIV 感染のリスクが高い人々です。
- 英国では、例えばゲイ・バイセクシュアル男性や一部のアフリカ系の人々といったHIV 感染率の高いネットワークでセックスをしている人々が含まれます。
- また上記には、性生活をコントロールすることが難しい人たちや、一部のセックスワーカーも含まれるかもしれません。



PrEPは、通常1日1回1錠の薬を内服し、定期的にHIVと他の性感染症の検査を受けます。

- たいていの人は、PrEPの錠剤を1日1回1錠内服します。
- 男性（トランス男性をのぞく）で、事前に性交渉のタイミングがわかっている場合には、性交渉の前後だけPrEPを服用することも可能です（オンデマンドPrEPと呼ばれる服用方法です）。しかし、オンデマンドPrEPは、女性やトランスジェンダーに対して有効であることを示す十分な研究データが、現在のところ存在していません。
- PrEPを服用中は、定期的にHIVと他の性感染症の検査を受けることが重要です。
- HIVと他の性感染症の検査と共に、腎機能の検査も定期的に受けましょう。

SUN	MON	TUE	WED	THUR	FRI	SAT
1 	2 	3 	4 	5 	6 	7 
8 	9 	10 	11 	12 	13 	14 
15 	16 	17 	18 	19 	20 	21 
22 	23 	24 	25 	26 	27 	28 
29 	30 	31 	1 	2 	3 	4 

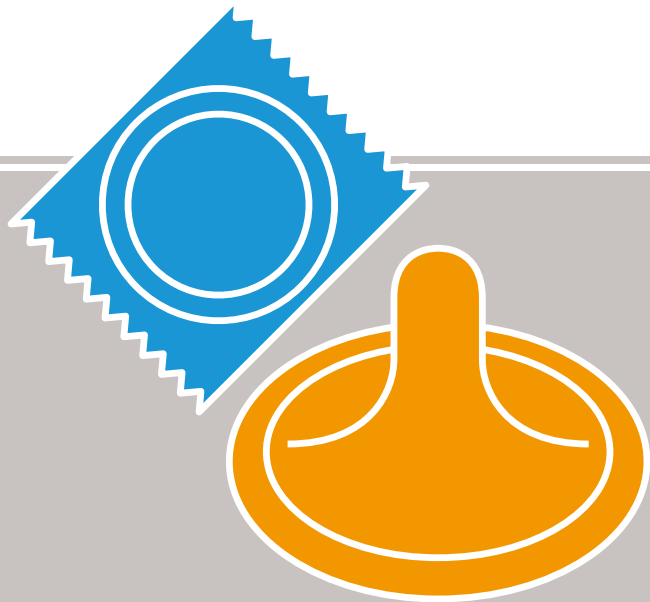


**PrEPの薬の濃度が十分に高まったら、
体内でHIVが留まるのを阻止します。**

- PrEPは、性交渉の前に余裕をもって薬を服用することと、性交渉の後も服用を継続することが重要です。
- PrEPの薬の濃度が予防に十分なレベルに達すること、それを維持することで確実な予防効果を得ることができます。
- PrEPは、体内でHIVウイルスの複製や増殖を阻止します。
- 性交渉後にPrEPの服用を継続することで、体内に残っているHIVウイルスからの感染を防ぎます。

**PrEPはHIVだけを予防します。
コンドームは他の性感染症も予防します。**

- PrEPはHIVだけを予防し、他の性感染症の予防や避妊効果はありません。
- コンドームは他の性感染症の予防にも有効です。妊娠しないためには、ピル(経口避妊薬)などの避妊方法も必要です。
- コンドームをすでに常用していない人たちが、最もPrEPに関心を持っているという研究結果があります。
- 定期的な性感染症の検査を受けることで、性感染症の早期診断と治療へと繋がるすることができます。



日本では、PrEPを目的とした抗HIV薬の服用が未承認であるため(2021年1月現在)、服用者をサポートしてくれる病院やクリニックは限られています。PrEPの内服を希望する方は、ぜひ以下の医療機関にご相談ください。

セクシュアルヘルスクリニック一覧

医療機関に関する情報は、
<https://hiv-prep.tokyo/resources> で更新中です。

国立国際医療研究センターSH (Sexual Health) 外来

男性同性間性交渉者で日本語でのコミュニケーションが可能な方のうち、PrEP薬の服用を検討している方、すでに服用中の方にPrEPに関する相談とPrEPに必要な検査を提供している。

<http://shclinic.ncgm.go.jp>

パーソナルヘルスクリニック

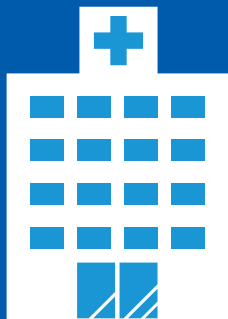
PrEP希望者に必要な検査を実施し、ジェネリックのPrEP薬を処方している。オンライン診療により遠方からの相談も可能。

<https://ph-clinic.org>

KARADA内科クリニック

PrEP希望者に必要な検査を実施し、先発品またはジェネリックのPrEP薬を処方している。

<https://sti-check.com>



どこからPrEPを購入(個人輸入)したらいい?

日本ではPrEPに使用する抗HIV薬(TDF/FTCまたはTAF/FTC)の先発品を感染予防目的で入手する場合、非常に高額となります。そのため、クリニックでジェネリックのPrEP薬を処方してもらうか、オンラインショップからジェネリック医薬品を個人輸入している方が多いのが現状です。

- PrEPに使用する抗HIV薬を個人輸入する場合、成分分析され品質の保証されたジェネリック医薬品を取り扱っているショップから購入すると安心です。詳しくは以下のウェブサイトをご参照ください。

<https://hiv-prep.tokyo/buy-prep-online>



- 日本では自分自身が使用する目的で輸入する場合に限り、1ヶ月分以内の薬の輸入が認められています。PrEPのジェネリック医薬品を個人輸入する場合は、1ボトル(30錠)までになります。
- 個人輸入する場合においても、医療機関で定期的な検査を受けることが必要です。必要な検査を受けることができない場合には、前のページで紹介したクリニックで処方を受けることも検討してみましょう。

それぞれの予防手段が、いろいろな人たちの
いろいろな状況で効果を発揮します。
状況に応じて最適な予防手段を選びましょう。

U=U (Undetectable = Untransmittable.)
ウイルスが検出できないレベルに抑制されている
感染者からHIVは感染しない



現在、適切な治療を受け、ウイルス量が検出限界以下のHIV陽性者からの感染リスクは、限りなく低いと証明されています。

少なくとも6か月間、ウイルス量が検出限界以下の状態を維持しているHIV陽性者から、HIV感染は起こりえません。

上記の理由から、ウイルス量が検出限界以下の状態を維持しているHIV陽性者と性交渉をする場合、その人だけとの性交渉であれば、PrEPを服用するメリットはありません。

詳しい情報はこちらのウェブサイトをご参照ください。

<https://hiv-uujapan.org>



PrEPは私に適した予防方法ですか？

- PrEPの恩恵を受けうる全ての人たち（性的にアクティブなMSMやトランスジェンダー、セックスワーカーなど）が、PrEPについて知ることが重要です。
- PrEPについて自分自身で学び、他の人に知ってもらう最良の方法の一つは、友人や恋人、性的なパートナーにPrEPについて話をすることです。

制作者

- Developing HIV Literacy は、HIVに関する知識や理解をより向上させることを目的に、Ingrid Young先生(エディンバラ大学)が行っているプロジェクトです。
- この冊子はHIV ScotlandとPrEPsterが共同制作しました。

日本語訳版について

この日本語訳版の冊子は、カラフル@はーと <https://hiv-prep.tokyo> が翻訳制作しました。オリジナルの英国版に掲載されている英国内でのPrEPへのアクセス方法についてのページは翻訳せず、日本の事情を考慮し、オリジナルの記事を掲載しています。

日本語訳版翻訳監修者：

- 上村 悠(国立国際医療研究センター病院 エイズ治療・研究開発センター Sexual Health外来)
- 高野 操(国立国際医療研究センター病院 エイズ治療・研究開発センター 臨床研究コーディネーター)
- 谷口俊文(千葉大学医学部付属病院 感染症内科 講師)
- 山口正純(武南病院)

この冊子の制作費用は、
bda ORGANIC セクシュアル・ヘルス次世代基金から助成いただきました。



Twitter フォローしてください！

@HIVScotland @dev_HIVliteracy @TeamPrepster @PrEPTOKYO

2021年発行